

【論文提出者】 伊東 裕起

【論文題目】

The Double War: Yeats' s Philosophy and Sense of National Identity in Evolution, from *John Sherman* through "Meditations in Time of Civil War"

(二重の戦:『ジョン・シャーマン』から「内戦時の瞑想」までのイエイツの哲学およびナショナル・アイデンティティの進化について)

【授与する学位の種類】 博士 (文学)

#### 【論文審査の結果の要旨】

本論文は、20世紀のアイルランド人作家 William B. Yeats (1865-1939) の作品について、多くの新たな解釈を提示している。筆者は、Yeats の創作活動においては、相反するもの、あるいは対照的なものの衝突、そしてそこから生じる一種の精神的 'conflict' が重要な要素となっており、それが彼の詩的創造性・革新性の源となっているとしている。そして初期の作品 *John Sherman* (1891) の分析を通して、そこに既に内面的・哲学的思考という内的要因と、政治的・民族的闘争という外的要因の衝突が見られることを指摘し、Yeats 的な 'conflict' がすでに彼の初期の段階で見られることを例証している。すなわち、初期のケルト文芸への強い傾倒は、実はアイルランドの文化・文芸の復興を、その国家、民族のアイデンティティを支えるものと考え、アイルランドの文化的地位を高めることがその自治・独立にいかにか重要であるかを考えていたがためであって、Yeats 自身の中では政治的活動と切り離されているのではなく、むしろ政治と向き合わされるものであったと、その初期の作品の分析を通して説得的に論じ、そこにすでに Yeats 的な 'conflict' の萌芽が見られるとする。筆者のこの指摘は、これまでの Yeats 研究で一般的に受け入れられてきた解釈——Yeats は彼の初期においては、ケルトの妖精世界を夢見る現実逃避的な作家で、現実や政治から目をそむけていたとする解釈——を修正するもので、従来の Yeats 解釈に新たな光を当てるものである。さらに、彼の後期の作品によく現れることになる対照的な人物の配置がすでにこの作品に見られることを指摘し、John Sherman と William Howard という二人の人物を「変化」と「不変」の対照と捉え、新たな解釈を提示し、同時にそこにも Yeats の詩学の萌芽を見出している。

本論文で述べられているもう一つの 'conflict' の例として、筆者は言語的な問題——アイルランド語 (ゲール語) と英語の問題——を論じている。すなわち、Yeats は、ケルトの吟遊詩人たちの詩の韻律の力を理解しながらも、Anglo-Irish 作家として英語で創作せざるを得ず、そこには常に葛藤がつきまわっていたと筆者は捉える。植民地である母国アイルランドの精神と魂を、宗主国の言語である英語で表現する作業は困難を極めるもので、その困難と葛藤こそがさらなる彼の詩的創造力となり、そこから彼独特の詩の言語が生まれているとする。アイルランド農民のゲール語や、ゲール語なまりの英語を取り入れた文体をその一例として挙げ、Yeats の作品における単なるゲール語要素の借用として看過されてきたこれまでの捉え方を修正し、Yeats の文学言語創造の過程を、本論文の視点である二つの要素の衝突という点から解釈し直し、ここでも Yeats 研究に一石を投じている。

以上述べた二点のほかにも、個人と集団、自己と他者、貴族性と衆民性、肉体と靈魂、自然と文化などの対照的要素を Yeats の作品中に見出し、二つの要素の衝突とそこから生じる Yeats 的 'conflict' という一貫した視点から作品を見直し、多くの新たな読みを提示している。

以上述べたように、Yeats という作家の社会的・政治的背景を踏まえながら、その難解な作品をよく読みこなし、Yeats の創作活動に迫り、また多くの新たな解釈を提示する本論文は、これまでの Yeats 研究に重要な貢献をなすものであり、博士論文として適格であると判断する。

### 【最終試験の結果の要旨】

平成 23 年 1 月 17 日（月）15 時より、文学部欧米言語文学コース研究室 II において、審査員 5 名の参加のもと、伊東裕起の学位論文審査最終試験を行った。まず、伊東氏が論文の概要を口頭で述べ、引き続き質疑応答を行った。論文の内容、および口述試問の応答ともに適切であり、申請論文が学位を授与するに足るものであることを審査委員全員が了解した。

よって、本委員会は、伊東氏の学位論文審査最終試験を合格であると判断する。

### 【審査委員会】

主査 ギルバート リチャード  
委員 大野 龍浩  
委員 隈元 貞広  
委員 杉谷 恭一  
委員 船山 和泉